

＜若林区中央市民センター＞の取組み〔目標3-②〕

若林区中央市民センターが平成25年度から複数年かけて取り組んできた事業「東西線沿線魅力探検隊」では、その事業に関わった方々が六・七郷堀サポーターズとして、次のような活動に取り組み、地域でその力を発揮しています。

平成27年度の活動状況を中心にそのご報告をいたします。

平成27年度は、若林区の地域素材でもある六郷堀・七郷堀を取り上げ、「みんなで『堀』起こし六郷堀・七郷堀がおもしろい」をテーマとし、仙台博物館、財団仙台市市民文化事業団、六・七郷堀サポーターズと連携し、若林区文化センターを会場に展示を行いました。

また、関連講座として堀の魅力について歴史や暮らしの視点から座学やワークショップなど学びを深めたことで参加された方々が、若林区の地域のつながりや人の動きにも関心を持ち、新たな交流や堀の魅力に繋げることができました。

この講座の参加者の中から数名の方が、六・七郷堀サポーターズのメンバーとして、活動をはじめております。

展 示

みんなで『堀』起こし六郷堀・七郷堀がおもしろい



六郷堀・七郷堀魅力マップをつくらう



歴史から見た六郷堀・七郷堀



堀のある暮らし-RE:プロジェクトの取材から-

関連講座の様子



堀の魅力 あーだ・こーだ大会議



ほり起こし仙台平野
-六郷堀と七郷堀のうつりかわり-



聞いてみよう「暮らしの中にある堀」

〈七郷市民センター〉の取組み〔目標3-②〕

七郷市民センターが平成25年度から複数年かけて取り組んできた事業「未来への伝言ー七郷を語り継ぐ」では、その関わった方々が次のような活動に取り組み、地域でその力を発揮しています。

平成27年度の活動状況を中心にそのご報告をいたします。

土地区画整理事業や地下鉄東西線の開業など、都市化が進む七郷地域。一方で、荒浜地域は東日本大震災によりほとんどの地域資源を失っています。変貌著しい七郷の歴史や震災の記憶を次世代に語り継ぐ担い手を育成しようと、3年間の複数年事業として「未来への伝言ー七郷を語り継ぐ」に取り組みました。

1年目は、地域の歴史について現地での見学会を行いながら学習しました。2年目は東日本大震災に照準を当て、地域の被災状況の学習や被災された方から震災体験の聞き取り、最終年となる平成27年度は、東日本大震災からの復興の様子や農地の復旧状況と営農化の動き、今後の七郷地域のまちづくりへの展望について学習してきました。そして、12月に七郷語り継ぎボランティア「未来へー郷浜（さとはま）」が立ち上がり活動を始めています。

まず、震災体験の語り部活動としては、若林区中央市民センター主催「六郷・七郷を訪ねる会」において現地荒浜での説明や小学校の総合学習での震災体験のお話、東北大学からの依頼では「AR HOPE TOUR in Sendai」において震災当時の七郷地区の状況をお伝えしました。また、3.11メモリアル交流館主催「オモイデ・カタル・ノコス・ツタエル」では昔の荒浜の写真を見ながら思い出を語っている様子を撮影し、その撮影したものは交流館2Fで放映されています。

そして、七郷地域の歴史や文化を伝えるガイドとしては、地下鉄東西線開業イベント実行委員会の依頼により地下鉄東西線六丁の目駅・荒井駅周辺のまち歩きでのガイドを務め、その他にはラジオや雑誌の取材対応等活動は多岐に渡っています。

今後も七郷の歴史や営み、震災のことを未来へ伝え残す活動は続きます。



「六郷・七郷を訪ねる会」での語り部活動の様子



「AR HOPE TOUR in Sendai」での語り部活動の様

＜荒町市民センター＞の取組み〔目標3-②〕

荒町市民センターが平成25年度から複数年かけて取り組んできた事業「荒町大好き企画会」では、その関わった方々が次のような活動に取り組み、地域でその力を発揮しています。平成27年度の活動状況を中心にそのご報告をいたします。

平成27年度は地元土樋に伝わる「梁川庄八首洗いの池」の話を取り上げ、梁川庄八を中心に調査をしました。そしてこの話を地域に残していくために、紙芝居を作り上げました。企画員が紙芝居のそれぞれの配役の読み手となり、フェスティバルで発表しました。その後、多くの方へ広めるため、審査会を経てメディアテークの教材アーカイブへ登録することとなりました。

また、企画員が講座を企画しガイドボランティアとなり、梁川庄八がかたき討ちをした大手門跡から、その首を洗ったとされる池があった愛宕橋までガイドウォーキングを行い、紙芝居の上演や講話も行いました。今後は施設などへ出向き紙芝居を紹介していく予定です。



定例会での調査報告の様子



紙芝居作成の構想会議の様子



紙芝居製作の様子



フェスティバルで紙芝居を披露



ガイドウォーキングへ出発

＜六郷市民センター＞の取組み〔目標3-②〕

六郷市民センターが平成年 23 度から複数年かけて取り組んできた事業「市民企画会 六ゴーイング」では、その関わった方々が次のような活動に取り組み、地域でその力を発揮しています。

平成 27 年度の活動状況を中心にそのご報告をいたします。

「市民企画会 六ゴーイング」

市民センターの講座や活動に親父世代にも企画・運営をしていただき、持っている力を大いに生かすことで、地域の活性化に参画してもらおうということで『六ゴーイング』の活動は始まりました。

平成 27 年度は夏休みを利用し、新しく完成した小学校の体育館やプールを活用して、「ちょこっと学校に泊まろう」を開催しました。竹を使ってのコップや箸、流しソーメンなど手作りの企画やジュニアリーダーによるゲーム大会、プールでの遊び、肝試し等、盛りだくさんの企画で参加者からも好評でした。もちろん、校長先生はじめ六郷小学校の全面的なご協力をいただいたことが成功に繋がりました。

また地域のお祭り「六郷復興の集い」では、出店と共にむすび丸の担当をし、祭りを大いに盛り上げてくれました。2 月には六郷児童館との共催事業「火起こし&ホットドック」の活動にもメンバー3 人が指導役をしました。『地域の親父団体』として少しずつ認められ活動の幅も広がっています。



＜沖野市民センター＞の取組み〔目標3-②〕

沖野市民センターが平成24年度から複数年かけて取り組んできた事業「東日本大震災の地域の活動記録—おきのかわら版—」では、その関わった方々が次のような活動に取り組み、地域でその力を発揮しています。

平成27年度の活動状況を中心にそのご報告をいたします。

3.11 東日本大震災の経験から得た教訓を風化させることのないように、発信することが出来る人材を育成することと、地域住民の防災に対する意識向上に繋げて、地域全体への啓発活動を強化することを目的として、「東日本大震災の地域の活動記録—おきのかわら版—」を平成24年度から発行しています。

- 沖野かわら版を第一号から第五号を平成24年度から平成26年度までに発行。
- 平成27年度は、第六号と第七号を発行。
- 10月には、主に町内会の防災担当者を対象に「防災・減災学習会」を開催。（沖野かわら版スタッフが中心となつての学習会には、延べ35人が参加。）
- 2月には、地域防災についての「座談会」を実施。（沖野かわら版スタッフがまとめ役となつて、3名の地域住民が参加。）

学習会と座談会での意見等は、沖野かわら版第六号と第七号作成の際の参考資料として大いに活用しました。このように、沖野かわら版スタッフが主体となつて、啓発活動を活発に行うことで、地域住民の防災の意識向上に繋げることが出来ました。

沖野かわら版第七号 3月11日発行



防災・減災学習会『HUG』体験



スタッフと講師の事前打ち合わせ

＜若林市民センター＞の取組み〔目標3-②〕

若林市民センターが平成 25 年度から複数年かけて取り組んできた事業「市民企画会議仙台の今・むかし」では、その関わった方々が次のような活動に取り組み、地域でその力を発揮しています。

平成 27 年度の活動状況を中心にそのご報告をいたします。

市民企画会議「仙台の今・むかし」から立ち上がった会の名称を「若歴会」として、地域の歴史学習を進めています。それぞれが発掘した資料は様々な年代のものではありますが、記録文やその裏付けとなる「地図」が豊富に収集できています。また、他地域で同様の学習を進めているサークルの方をまねき、いろいろアドバイスをいただくことができました。

平成 27 年度は、地域の寺院が黄檗宗であることから「仙台の黄檗宗と観心院さん」と題し、黄檗文化を学ぶ公開講座を開催しました。さらに若林老壮大学のひとコマで、学習成果を発表する場を設けることができました。老壮大学受講生の皆さんも地域の昔の姿を思い出し、複雑な道の在り方に、昔の街道のなごりが多くみられることなどを知り、楽しく学習していただけたと思われます。

若歴会は月 1 回、学習の場を設けています。



＜内容（一部）＞

① ^{ちようきんね}丁切根跡
河原町にあります。
奥州街道から城下の入口「木戸」にあたります。



② ^{まつばら}松原地蔵尊
地域の方に守られています。



③ ^{みちしるべいし}道標石
西八御城下
南八関上
北八小泉
と刻まれています。

↑ 若林老壮大学のひとコマでの発表

「若歴会」の他のメンバーも出席しました。

